

今月の例会報告

 「みどりの食料システム戦略」が目指す先と実現への取組

農業政策・環境・観光グループでは、2月8日に農林水産省環境バイオマス政策課 みどりの食料システム戦略事務局 課長 秋葉 一彦 氏をお招きして「みどりの食料システム戦略」について学びました。

みどりの食料システム戦略は2022年5月に農林水産省から公表。今国会で法案提出が行われたところでもあります。生産者の減少や高齢化、温暖化からくる自然災害の増加、SDGsや環境対応の強化、コロナを契機として生産・消費の変化など現状と今後の課題から持続可能な食料システムの構築に向けて2050年を目標に目指す姿や戦略的な取組について述べられています。今回はみどり戦略の担当課長である秋葉氏より概要と具体的な展望についてお話をしました。

みどり戦略の中では2050年までに目指す姿と取組の方向について大きく5つの分野で細かく14の目標が設定されています。大きくは「温室効果ガス削減」「環境保全」「食品産業」「林野」「水産」の5つです。生産に直接携わる農業経営者だけでなく、食品を扱う企業や林業、水産業と幅広く多くの企業に関わる内容となります。



↑ オンラインで登壇した秋葉氏と小倉部会長

当日の質疑応答などで興味関心を集めたのは有機農業や化学肥料に関わる部分でした。みどり戦略の中では2050年までに有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大する目標が設定されています。どのようにそこに到達するのか、14の目標達成への具体的道筋はこれからの生産者がどれだけ自分事として取り組むことができるかにかかっています。

 オーガニック給食の実現に向けた取組報告

販売戦略グループは3月22日にオーガニック給食の実施に向けた取組報告～十勝で取組む意義と今後の展望～と題して今年度1年間で取組んできた活動について報告しました。

パネルディスカッション形式で生産者3名、(株)折笠農場 折笠社長、小笠原農園 小笠原代表、アグリシステム(株) 伊藤社長とよりよい給食の実現の取組を行うナチュラル輪おびひろ 中山代表の4名が登壇し、(株)松橋農場の松橋社長がコーディネーターを務めました。

オーガニック給食に関わる取組は全国各地で少しずつ始まっていますが国際的に見れば日本は後進国であると言えます。そんな中、日本の食料生産基地である十勝からモデルケースを創れないかと行政や外部団体と協力しながら1年間試行錯誤を繰り返してきました。子どもたちから人気が高いカレーについて「美味しく」なおかつ「予算内で作成ができる」「原料の安定供給が可能」なメニューを試作するなど取組の成果を報告すると共に会場やZoomでの参加者から意見や質問をもらい関連に討議を行いました。今後も継続して取組を進めていきます。

 農業経営部会今後の予定

新年度を控え、季節もようやく春へと移り変わったところですが、今期は雪が多かったこともあり、まだちらほらと雪が残っていますが、農作業も少しずつ始まってきています。段々と農繁期へと突入しますが学びが止まることはありません。

(今後の予定)

4/6(水) 第34回定時総会
記念講演：世界とつながる(仮)
講師：農林水産省 農林水産審議官 新井 ゆたか 氏